

年齢別にみた茨城の人口

はじめに

昭和55年国勢調査を契機として、55年10月以降、市町村別、年齢別人口推計を実施してきましたが、このたび55年国勢調査結果を基にして、56年1年間における年齢別人口推計の結果をとりまとめましたので、その概要を紹介いたします。

1. 年齢別人口

～老年人口割合は9.5%～

年齢3区分別の人口をみると、0～14歳の年少人口641,449人、15～64歳の生産年齢人口1,714,217人、65歳以上の老年人口246,700人で、それぞれの割合は、24.6%、65.9%、9.5%となり、昭和55年10月1日の国勢調査(24.6%、66.2%、9.2%)

に比べ、生産年齢人口が0.3ポイント低下し、老年人口が0.3ポイント上昇している。

また、国勢調査人口との増減率をみると、年少人口では2.1%増、生産年齢人口1.3%増、老年人口4.3%増で、老年人口の伸びが大きい。

～市部は年少、生産年齢人口が、郡部は老年人口割合が高い～

市部、郡部別にみると、年少人口は市部317,099人(総人口に占める割合25.1%)郡部324,350人(24.2%)、生産年齢人口は市部836,437人(66.2%)、郡部877,780人(65.6%)、老年人口は市部109,885人(8.7%)、郡部136,815人(10.2%)で、年少人口と

図-1 地域別年齢3区分別割合

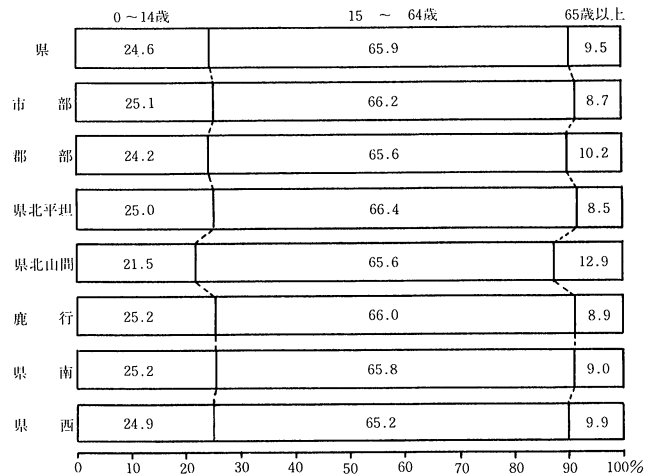


表-1 地域別にみた年齢階級別人口

(単位：人)

地域	県	県北平坦	県北山間	鹿行	県南	県西
年齢階級						
総数	2,602,989	786,395	305,547	241,411	743,271	526,365
0～4	191,795	58,174	19,207	19,341	55,357	39,716
5～9	230,777	69,899	22,907	21,507	69,257	47,307
10～14	218,877	68,670	23,673	19,634	62,799	44,101
15～19	172,709	55,065	21,789	15,143	46,427	34,285
20～24	155,060	48,556	16,669	13,810	44,573	31,452
25～29	193,163	60,046	20,410	20,617	51,808	40,282
30～34	248,251	75,759	23,809	24,815	74,241	49,627
35～39	193,718	61,013	17,704	17,025	61,685	36,291
40～44	185,315	59,983	19,347	15,943	55,419	34,623
45～49	168,378	51,641	20,885	15,270	47,545	33,037
50～54	158,585	44,392	23,089	15,005	43,285	32,814
55～59	136,996	37,274	21,057	12,634	36,578	29,453
60～64	102,042	28,753	15,564	9,083	27,403	21,239
65～69	91,637	25,348	13,832	8,002	25,133	19,322
70～74	72,105	19,695	11,310	6,218	19,570	15,312
75～79	44,800	11,740	7,430	3,980	12,118	9,532
80～84	25,464	6,596	4,470	2,289	6,708	5,401
85～89	9,879	2,660	1,795	865	2,491	2,068
90～94	2,480	657	483	181	643	516
95以上	335	83	63	32	80	77
不詳	623	391	54	17	151	10

昭和三十九年茨城県常住人口調査結果から

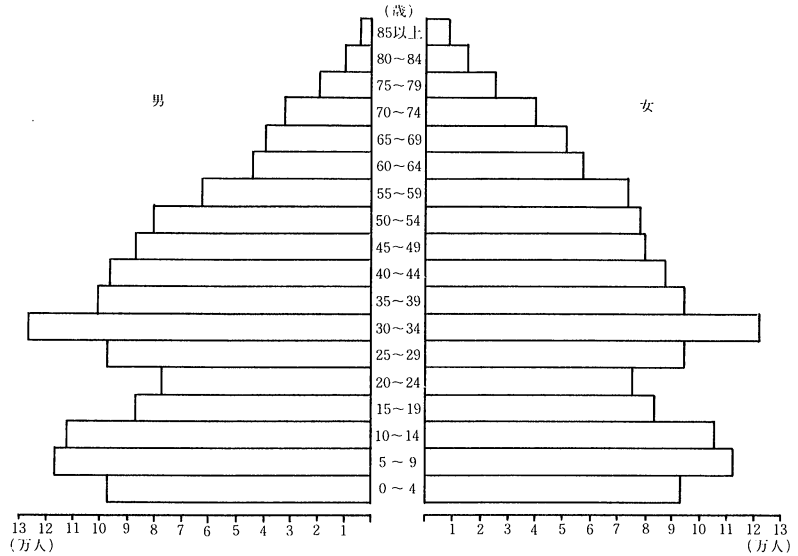
生産年齢人口では市部が郡部より割合はそれぞれ0.9ポイント、0.6ポイント、老年人口は郡部が市部より1.5ポイント高くなっている。

～県北山間は年少人口低く
老年人口の割合が高い～

地域別にみると、年少人口の割合は、県北山間が21.5%と県平均24.6%を3.1ポイント下回っているが、他の地域はいずれも県平均を上回っている。老年人口の割合では、県北山間と県西が県平均を上回っているが、他の地域は下回り特に県北山間は12.9%と県平均(9.5%)より3.4ポイント上回っているのが目立っている。

また、市町村別にみると、年少人口の割合が最も高いのは、茎崎村の32.5%、次いで利根町30.5%、取手市30.1%などで、その割合が低いのは金砂郷村16.9%、水府村17.5%、緒川村18.2%などである。生産年齢人口の割合では、最も高いのは桜村の72.1%、次いで谷田部68.0%、大洗町67.2%などである。老年人口の割合で最も高いのは、緒川村の18.1%、次いで金砂郷村17.1%、御前山村16.9%などとなっており、最も低いのは桜村の4.4%、次いで鹿島町5.4%、取手市5.5%などとなっている。

図一 2 男女別、年齢(5歳階級)別人口構成



年齢構成指数をみると、県平均の年少人口指数37.4、老年人口指数14.4、老年化指数38.5で、55年国勢調査(37.1、14.0、37.6)と比べ、年少人口指数は0.3ポイント、老年人口指数は0.4ポイント、老年化指数は0.9ポイント、それぞれ上昇している。

～人口比率は30～34歳階級が最も高い～

また、年齢5歳階級別にみた場合、最も多いのは、30～34歳階級の248,251人(総人口の9.5%)で、次いで5～9歳階級の230,777人(8.9%)となっている。

なお、県平均年齢をみると、33.9歳(男33.1歳、女34.7歳)となり、55年国勢調査の33.8歳(男32.8歳、女34.2歳)と

比べ、0.1歳高くなっている。

2. 男女別 年齢別性比

～53歳以下は男、54歳以上は女が多い～

昭和57年1月1日現在の本県人口を男女別にみると、男1,295,028人、女1,307,961人で、

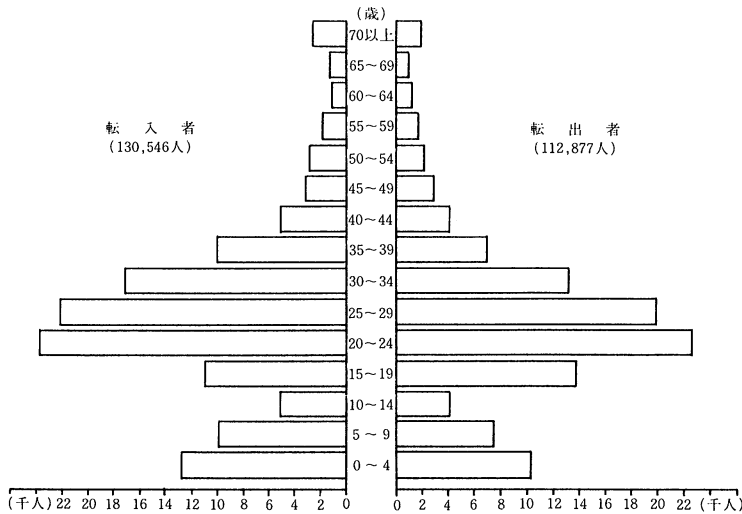
表一 2 年齢(3区分)別人口の状況

(単位: %)

年少人口 (0～14歳)				生産年齢人口 (15～64歳)				老年人口 (65歳以上)			
割合の高い市町村		割合の低い市町村		割合の高い市町村		割合の低い市町村		割合の高い市町村		割合の低い市町村	
市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合	市町村	割合
茎崎村	32.5	金砂郷村	16.9	桜村	72.1	大宮町	52.6	緒川村	18.1	桜村	4.4
利根町	30.5	水府村	17.5	谷田部町	68.0	茎崎村	61.6	金砂郷村	17.1	鹿島町	5.4
取手市	30.1	緒川村	18.2	大洗町	67.2	利根町	61.6	御前山村	16.9	取手市	5.5
牛久町	30.0	桂村	18.4	那珂湊市	67.2	伊奈村	63.0	桂村	16.7	勝田市	5.8
三和町	28.4	山方町	18.9	常澄村	67.2	瓜連町	63.1	水府村	16.3	取手市	5.9

調査から

図-3 転出入者の年齢(5歳階級)別構成



女性の方が男より12,933人多く、性比は99.0となった。これは、全国の性比(96.9)に比べ2.1ポイント高く全国第6位

である。

本県人口の性比を年齢別にみると、54歳以上は、すべて100以上となっているが、53歳以下では21歳を除きすべて100以下で年齢が高くなるに従い性比は低下する傾向となっている。これは、年齢別死亡率が、常に男が女を上回り、その差は、年齢が高くなるにつれ大きくなるため、相対的に女の方が多くなり性比もまたこれに伴って低下することになる。

3. 年齢別移動状況

～15～19歳階級は転出超過～

移動者の状況を、年齢5歳階級別にみると、移動者総数243,423人のうち、移動が多いのは、20～24歳の46,287人(19.0%)、25～29歳の41,845人(17.2%)、30～34歳の30,493人(12.5%)となって

表-3 年齢階級別転入転出状況

(単位: 人, %)

年齢階級	移動総数	移動割合	転入	転出	社会増加数	増加割合	移動総数の性比
総数	243,423	100.0	130,546	112,877	17,669	100.0	111.9
0～4	22,612	9.3	12,765	9,847	2,918	16.5	101.6
5～9	17,182	7.1	9,959	7,223	2,736	15.5	102.8
10～14	9,462	3.9	5,377	4,085	1,292	7.3	100.7
15～19	25,451	10.5	11,671	13,780	△2,109	△11.9	153.7
20～24	46,287	19.0	23,609	22,678	931	5.3	128.7
25～29	41,845	17.2	22,034	19,811	2,223	12.6	94.6
30～34	30,493	12.5	16,969	13,524	3,445	19.5	126.4
35～39	16,035	6.6	9,130	6,905	2,225	12.6	142.1
40～44	9,722	4.0	5,412	4,310	3,327	6.2	157.6
45～49	6,397	2.6	3,535	2,862	673	3.8	154.8
50～54	4,930	2.0	2,731	2,199	532	3.0	137.9
55～59	3,358	1.4	1,885	1,473	412	2.3	109.9
60～64	2,474	1.0	1,395	1,079	316	1.8	63.4
65～69	2,590	1.1	1,492	1,098	394	2.2	66.3
70～74	2,060	0.9	1,187	873	314	1.7	65.2
75～79	1,188	0.5	669	519	150	0.8	57.5
80～84	673	0.3	375	298	77	0.4	44.4
85～89	327	0.1	174	153	21	0.1	38.6
90～94	55	0.0	28	27	1	0.0	41.0
95才以上	9	0.0	5	4	1	0.0	50.0
不詳	183	0.1	144	129	115	0.7	97.8

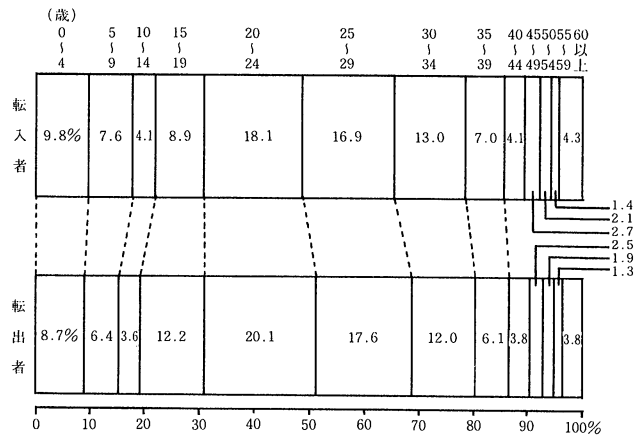
いる。

これを、転入、転出別にみると、転入では、20～24歳の23,609人、25～29歳の22,034人、30～34歳の16,969人で、それぞれ全体の18.1%、16.9%、13.0%となり、転出では、20～24歳の22,678人、25～29歳の19,881人、30～34歳の13,524人で、それぞれ20.1%、17.6%、12.0%となっている。なお、15～19歳が転出超過となっているが、他の階級は、いずれも転入超過である、15～19歳階級の転出が多いのは高等学校卒業者の進学、就職による移動が原因と考えられる。

地域別にみると、全地域で、転入、転出ともに20歳台が最も多く、次いで30～34歳階級が多く、また、転出超過となっている15～19歳(県全体で2,109人)では、県北山間(1,331人)、県西(943人)、県北平坦(785人)、鹿行(518人)となっている。

なお、県北山間では、20～24歳(227人)、25～29歳(176人)

図-4 転出入者の年齢(5歳階級)別移動人員割合



と20歳台にも、比較的多い転出超過が見受けられる。

(統計課・人口労働統計グループ)

表-4 地域別にみた年齢階級別移動状況

(単位：人)

地域 年齢階級	県	県北平坦	県北山間	鹿行	県南	県西
移動総数	243,423	75,040	22,034	22,368	85,373	38,608
0～4	22,612	7,040	1,848	2,066	8,180	3,478
5～9	17,182	5,077	1,181	1,581	6,760	2,583
10～14	9,462	2,752	580	1,037	3,693	1,400
15～19	25,451	7,567	2,957	2,446	8,150	4,331
20～24	46,287	14,698	5,041	4,204	14,368	7,976
25～29	41,845	13,503	4,292	3,986	13,104	6,960
30～34	30,493	9,647	2,313	2,873	11,174	4,486
35～39	16,035	4,626	1,058	1,422	6,612	2,317
40～44	9,722	2,978	691	819	3,856	1,378
45～49	6,397	1,886	471	534	2,532	974
50～54	11,327	1,449	409	392	1,940	740
55～59	3,358	910	288	302	1,342	516
60～64	2,474	696	195	202	996	385
65～69	2,590	744	264	196	1,030	356
70～74	2,060	592	189	164	802	313
75～79	1,188	352	142	81	419	194
80～84	673	174	74	49	270	106
85～89	327	86	34	11	114	82
90～94	55	15	3	2	23	12
95歳以上	9	2	3	1	2	1
不詳	273	246	1	—	6	20